世界的人気のRALLY RACINGに新サイズ16インチが追加!

1990年代にデビューし全世界で話題をさらった伝説のホイール『ラリーレーシング』。一度カタログ落ちしたが2017年に復活、これまた全世界で注目を集めた。そんな誰もが注目する『ラリーレーシング』に新サイズ16インチが追加されるとの情報が!これはミニ乗りにとっても気になるニュースだ!!

Text=小松ひろ　Photo=小松ひろ、OZ、ENKEI

OZ
オーゼット
https://www.ozracing.com/jp/

誰もが一度は目にしたことがあるであろう、OZのホイール『ラリーレーシング』。ラリーにまつわるストーリー、多くのクルマ好きを魅了した独創的な白デイッシュ+赤いブランドロゴデザインは、17年登場の復刻版でもそのまま受け継がれていたから、世界で注目を集めた。そんな人気のラリーレーシングに、新サイズの16インチが追加された。

まず、ラリーレーシングを送り出すOZについておさらいしておこう。同社は1971年にイタリアで、シルバノ・オッゼラドーレ、ピエトロ・ゼンというふたりの人物が立ち上げた。ふたりともレース好きで、自らラリーに参加するためにミニ用ホイールを作ったのが始まりで、つまりOZとミニとの関わりも深い。そしてその後も、モータースポーツに積極的に関わり、F1、WRCなどで数多の勝利を手にしてきた。

1990年代、WRCではトヨタ・セリカGT-FOURが大活躍。圧倒的なまでの存在感を放っていた。そのセリカのグラベル（未舗装路）用ホイールを原型として、91年にアフターマーケット用に誕生したのが、ラリーレーシングだ。競技成績に加え、スタイリングも個性的。〝伝説〟と言われるほど人気を博した。

そんなラリーレーシングも2000年代に入ると惜しまれつつ生産終了となる。しかし近年のSNSの浸透により、再び脚光が当たり、満を持して17年に復活。今では当時の活躍を直接知らないユーザーも、その個性的なスタイリングを求めて装着するケースも多いという。今回16インチのリリースにあたり、さらに幅広い車種で装着できることになる。ますます人気が広がることは間違いない。

オーゼットジャパン
内山晶弘代表
今回の16インチ版「ラリーレーシング」リリースのキーマン。コンパクトカーや軽カーまで含め、16インチの需要が日本にはあるとOZイタリア本国へ訴え続けた人物である。

エンケイ
鈴木崇仁さん
現在でもOZ本社とレース関係を通じて繋がりを持つ。内山さんがエンケイ勤務時代の後輩にあたるとか。鈴木さんがあってこそ、今回の16インチリリースが成立したとも言える。

象徴的なレースホワイト（＋赤いロゴ）のほか、ダークグラファイト、グロスブラックの3色を用意。リム幅、インセット等のサイズ設定によっては、カラー設定がない場合もある。16インチのみでリム幅やインセットなど、「こんなにたくさん！」と驚くほどのバリエーションを揃えてのリリースだ。

写真左はWRCでカルロス・サインツが駆るセリカGT-FOURの足元を支えたホイールを原型に、91年に市販用として登場したラリーレーシング。写真上の左は17年登場の復刻版。基本造形は同一ながらスポーク部が爪形状など、現代に合わせたアレンジが見受けられる。日本製となる復刻版の新サイズ16インチ（写真上右）は、18インチ版と比べても見た目の違いはない。

WRC参戦車両のグラベル（＝未舗装路）用ホイールに由来するラリーレーシング。競技用は現在でも、グラベル用ホイールは小さい窓＋広いディッシュ面にロゴの意匠が踏襲されている。

イタリアOZから送られた17インチ用のデザインをエンケイが16インチに最適化。綿密に本社サイドとコミュニケーションを図りながらメイドインジャパンのラリーレーシングは完成した。17、18インチ版と比べても、完璧なまでに同じラリーレーシングに仕上がっている。

アウトドア系カスタムと相性抜群のデザイン!

91年に登場したラリーレーシングは、WRC参戦車のグラベル用ホイールが原型。特徴的なディスクの面の小さい窓は砂利等からブレーキを守るためだ。つまり、実はそのデザインには明確な理由がある。結果的に広くなったディッシュ面にブランドロゴを流すことで、視覚的にも見栄えする仕様となった。ちなみにセリカのターマック（舗装路）用ホイールを原型としたクロノも、当時に誕生している。ラリーレーシングとクロノをそれぞれ所有するオーナーもいたそうだ。

17年に復刻したラリーレーシングは、実は先代とまったく同じデザインというワケではない。OZジャパンの内山さんによると、当初3つのデザイン案があったという。忠実に前作をトレースしたものや現代的にアレンジしたものなど。結果選ばれたのが、現在発売されている現代的にアレンジしたデザインで、よく見ると爪のような形状でリムとディッシュを繋いでいるのがわかる。これは先代にはない部分だが、こんな違いがあっても、小さい窓、広いディッシュ面への特徴的なブランドロゴという要素が備わるから、ひと目で『ラリーレーシング』であることがわかる。

さらに、新たな技術を投入している。その代表はロゴ。滲みのないクリーンな仕上がりで、触っても段差が皆無。これはOZの特殊な印刷技術を投入することで実現した。あの特徴的なロゴも、進化しているのである。

復刻した新ラリーレーシングは指名買いも多く、言わずと知れた世界的な人気モデルだ。そして今回、既存ラインナップの17、18インチに加え、16インチが追加されるのが最大のトピック。ミニでも、初代や二代目のR系にドンピシャ。現行（F系）にしても純正が17インチなら、乗り心地アップを狙ってあえてインチダウンをしたり、クロスオーバーなら、リフトアップと組み合わせて、アウトドア仕様を狙うのもあり。実際にOZでも、グラベル用のデザインということもあり、アウトドア系への装着もイメージしている。このようにラリーレーシングに16インチが加わるというのは、個性的なスタイルとともに、使い方の幅も広げてくれると言えよう。

そしてこのラリーレーシングの16インチ版は、メイドインジャパンである点も注目点のひとつ。そもそもこの16インチ版、OZジャパンが企画したもので、製造を担うのは国内有数のホイールメーカーであるエンケイなのだ！ 次ページではエンケイの鈴木氏を交えて、さらに詳しい話を伺ってみる。

WRC、F1を筆頭に、様々な競技フィールドでマシンの足元を支えてきたOZ。OZと長く、強い繋がりを持つエンケイは、OZの競技活動を裏側から支えてきた、いわば盟友的存在といえる。

グラベル＝土＝アウトドア、ということで、16インチ版ラリーレーシングはアウトドア系車両・仕様への装着もイメージ。OZのSNSやプレスリリースに掲載されたサンプル写真はキャンプなどを想像させる。ミニは初代や2代目の車両にぴったり。現行モデルでもインチダウンをしたり、アウトドア仕様のアレンジにも最適だ。

イタリアンデザインと日本の技術が融合

OZのホイール＝メイドインイタリーが基本だが、この16インチモデルはエンケイが製造を担当。つまり日本製なのだが、その理由は16インチモデルがOZジャパンが企画したラインナップだからだ。OZジャパンの内山さんによると、OZ本社サイドは当初、16インチ投入に乗り気ではなかったようで、「他の国での需要はない、と本国生産は突っぱねられていました」という。しかし日本ではコンパクトカーを筆頭に16インチは人気のサイズ。絶対に求められるはずと内山さんはリリース時から感じていた。そこで綿密な企画書を作成し、エンケイを製造等を担当するパートナーとすること等々、本社に熱心に提案。その結果、ラリーレーシング日本製16インチのプロジェクトが動き出したのだ。

OZとエンケイの関係にも触れておこう。そもそもOZジャパンは、イタリアOZ社とエンケイの合弁会社として89年に立ち上がったという歴史がある。その後合弁は解消されたが、現在に至るまで深い繋がりはその後も続いている。

エンケイはホイールメーカーというイメージが強いが、自動車メーカーの純正ホイール製造やホイールメーカーのOEM製品の製造など、幅広い領域において実績がある。実はOZジャパン代表の内山さんもかつてエンケイに所属していて、「血縁の仲にある会社」と自ら語っており、本社ともどもエンケイへの信頼は厚い。OZ本社に16インチ版のプレゼンをする中で、『エンケイにて製造』を提案すれば、「あのエンケイならば」と受け入れられるのは自然なことだったと言えよう。

「内山社長とは昔から、一緒に仕事をやりたいね、と話していました。私自身もイタリアのOZと仕事をしていたので、この企画が通った時は、内山社長とふたりで喜びました」

このプロジェクトのキーマンのひとり、エンケイの鈴木さんはこう話す。つまり、この16インチ版のラリーレーシングは、OZ本社を動かすほどの内山さんの熱意、そしてエンケイへの信頼、長年にわたるエンケイ鈴木さん個人への信頼により、企画が動き出したのだ。ラリーレーシングの16インチ版は、イタリアンデザインと日本の製造技術、そしてふたりの信念の融合により誕生した作品なのである。

もちろん開発の段階での、イタリアのOZ本社との密なコミュニケーションは欠かせない。設計図は送られてきたが、それを16インチ用へ落とし込む作業や色味のチューニング等には時間を掛けたという。ただ径を縮小しただけではない緻密な再現性。また、とりわけ「ロゴが命」のモデルだけに、ロゴ部分はオリジナル仕様とそん色ないように、色やツヤ感など特に気を付けたそうだ。

さらに、軽量と高剛性を実現するエンケイの独自のリム成形技術、MAT製法を投入しているのもポイント。「ディスク面が大きなデザインなので、なるべく軽量にしたい」と内山さん。鈴木さんも、「『エンケイのMAT』は広く認知されています。だからMAT製法で作るのは大前提でした」という。金属組織を微細化させ、さらに圧延加工する製法で、鋳造製品でありながら、鍛造なみの強度を確保した。

こうして、日本発の企画であり日本で製造された、OZ本社公認のラリーレーシングの16インチ版が誕生した。当面は日本でのみの販売となるようだが、そこは情報が飛び交うSNSの時代。海外オーナーからの注目度も高まっていて、既に問い合わせも来ているそう。全世界的に16インチ版の潜在的ニーズがあったのかもしれない。

リム幅やインセット、PCDの設定を豊富に用意してリリースされる16インチ版。色はレースホワイト、ダークグラファイト、グロスブラックの3種類が揃うが、現時点ではサイズによって、色の設定が変わる。「まずスタート段階ではこの色の設定で。でも今後は……。要望に応じては最終的には、全色選べるサイズが増えるかもしれません」と内山さん。市場の反応を見て、対応を変える余地はあるそうで、さらにサイズ設定自体も追加するかも!?

伝説のホイール『ラリーレーシング』に加わった新たな魅力、16インチ。この新サイズとともに、ラリーレーシングの新たな伝説が始まるのは間違いない。

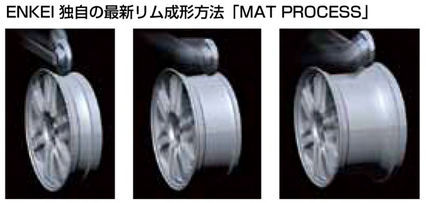
色味は、本社と調整を図りながら煮詰めていったそう。ブランドロゴは、OZ社の特殊印刷とは完全に同一ではないが、本国製造品とそん色ない仕様で仕上げられている。

ラリーレーシング16インチ版には、OZジャパン内山社長とエンケイ鈴木さんの想い、こだわりが詰まっている。製造元は変わるが、意匠・色など再現性にこだわり、さらにエンケイならではの技術を投入。あえて16インチを選ぶ意味がある。

軽さと強さを両立する技術

流し込んだアルミ合金を、ディスク面から急速冷却～凝固させることで、金属組織を微細化。引張強度や耐力を大幅に強化した。この素材を、さらに圧延加工することで、鍛造なみのインナーリムが成形される。この成形方法がエンケイの『MATプロセス』。基本は鋳造なので、鍛造ホイールと比べてコストが掛かりすぎないのもポイント。16インチのラリーレーシングも重量と強度面にこだわっていて、それでいて手の届く価格を実現したのは、この技術あってこそ。

ENKEI 独自の最新リム成形方法「MAT PROCESS」



MAT PROCESS
処理前の金属組織

MAT PROCESS
処理後の金属組織

マンドレル（芯金）型に固定し、回転させながらローラーによって圧延加工を施すとアルミ合金の金属組織に、鍛造製法の特徴である「鍛流線」が現れる。

ENKEI ■ https://www.enkei.co.jp/

照りのあるグロスブラック仕様。デザインのまとまりの面でも16インチは申し分ない。裏面には『MADE IN JAPAN』の文字が。リム部には16インチを示す『16』の刻印が記される。

カラー設定はレースホワイト、ダークグラファイト、グロスブラックの3種類。サイズによって設定カラーが異なり、16インチの発売開始時点では、現行ミニ用のサイズとなる、PCD＝112の5穴仕様ではレースホワイトの設定はない。今後の要望によって変わる可能性はあるので期待。5月中旬より販売開始予定。

OZジャパンは、16インチ版を提案するなど、ユーザーのニーズを積極的にすくい上げている。SNSの活用も積極的で、このイラストは、SNSで繋がった作家さんに依頼して描いてもらったもの。SNSではOZジャパン独自の活動もいち早く見られる。

MINIおすすめサイズ
※ローダウン車などカスタマイズサイズも含みます

■R系
16×65 4 100 38/45 4万5100円（税込み）
16×70 4 100 42 4万6200円（税込み）

■F系
16×70 5 112 38/48 4万6200円（税込み）

ホワイト＋赤ロゴが印象的だが、実は一番人気なのは、このダークグラファイトだそう。幅広いボディ色にマッチするのがその人気の理由。好みに合わせて16インチから18インチまで選べるのが嬉しい。

左が18インチで、右が16インチ。基本デザインは当然同一。その上でラリーレーシングのデザインを16インチに最適化。ホイール色やロゴも、文句の言いようのない再現性だ。

Rally Racing
|連|載|企|画|2|

OZ の SNS をチェック

オーゼットジャパンでは、LINEやインスタグラムなどの各SNSで情報を発信中。OZの最新情報やSNS限定のニュースがゲットできるかも。

また、インスタグラムではユーザーズギャラリーを開設中。合わせて、OZ取り扱いブランドのホイール（OZ、MSW、スパルコ）を装着しているユーザーを対象にしたキャンペーンも実施している。インスタグラムのオーゼットジャパン公式アカウント「oz_racing_japan」をフォローして、「#ozracingram」のハッシュタグを付けて写真を投稿すると、抽選でオリジナルグッズをプレゼント！　OZのSNSを要チェック！

公式LINEはこちらから
またはLINEにて「オーゼット」で検索。

公式インスタはこちらから
またはインスタグラムにて
「oz_racing_japan」で検索。

公式Facebookはこちらから
https://www.facebook.com/ozracingjapan/